

アジアにおける JBIC の役割とインフラ・ファイナンス

国際協力銀行 渡辺博史

世界経済の黄金期とも言われた 2005 年・2006 年の後、米国のサブプライム問題に端を発したリーマン・ショック、その後続くギリシャの財政粉飾が招いた欧州の金融不安、通貨ユーロの減価という大変動にさらされた国際金融市場は、大きく収縮している。短期の資金は各国中央銀行の大規模な流動性供給で「潤沢」というよりも副作用が懸念されるほどに「過剰」に溢れているのに対して、インフラ整備あるいは環境プロジェクトの推進に必要となる長期資金の供給は大きく落ち込んでいる。この 10 年間に、世界全体では 20 兆ドル、アジアだけで 8 兆ドルという膨大な額になると見込まれているインフラ・ファイナンスの資金需要を賄う資金供給は簡単ではない。

開発途上国あるいは一部の新興国におけるこれらの需要を下支えしてきた公的資金・政府開発援助（ODA）は、先進各国が自らの財政健全化に向けた緊縮策の遂行の中で、大きな伸びは期待されない。したがって、民間資金市場にある短期の資金を如何に長期化し、かつインフラ等の投資に向けていくかが不可避の課題となる。

JBIC は、「逆循環的な資金補填機能」、「より大きな資金の取りまとめにむけての触媒機能」そして「問題が生じたときの処理解決機能」の三つの機能を果たすことによって、この課題に取り組んでいる。

本源的な貯蓄が大量に所在するアジアの好条件を活用するために、

- ① これまで国際金融業務に積極的でなかった金融機関を如何にファイナンス・シンジケートに誘引するか、
- ② 溢れかえる短期資金を如何に長期資金化するか、
- ③ これまで欧米を迂回してアジアに還流してきたアジアの貯蓄を域内でそのまま長期資金として活用するための債券市場整備を如何に推進するか、
- ④ つなぎの短期流動性を安定的に提供するための方策として何を行うか、
- ⑤ 以上の実施に向けて、域内各国政府、機関とどのような対話、協議を進めるか。

といった施策を推進している。

(以 上)